

自転車マナーアップ隊の手記

※ 自転車マナーアップ隊は、県内の高校生たちが、毎月15日「自転車安全の日」を中心に学生自らルールとマナーの指導に当たり、自転車の安全利用意識向上を図り、自転車事故の減少を目的に活動しています。

無題（自転車の加害者事故を知って）

東邦大学付属東邦高等学校 大久保 雄規

みなさんは自転車が“左側走行”が原則なのを知っていますか？

僕は生徒会役員として「自転車マナーアップキャンペーン」という活動に参加しました。といっても学期ごとに一回、朝に警察の方々が来て、交通安全のチラシやグッズを自転車で登校してくる生徒に配るとい程度のものです。

まずこれまで2回の活動の感想を紹介します。

1回目：そんな活動があるらしいといった感覚。自転車に乗る人はマナーを守りましょうね～程度の軽いものという認識でした。

2回目：前回と同じ内容…これって意味あるの？と少し心にひっかかっていました。

そんなとき「最近事故が増えてるからねえ。でも保険入ってない人多いから大変なんだよ……」と警察官の方の言葉が耳に入りました。（ああ、そっか賠償とかたひへんなんだなあ）とは感じましたが、自転車についてまだ軽い認識でした。

それから少して、とある自転車事故に関する新聞記事が目にとまりました。

事故は小学生の男の子が乗った自転車と高齢の女性が乗った自転車とがぶつかったというもの。運悪く女性は骨折してしまいます。

さらに記事を読み進めていくと男の子の母親のコメントがありました。

「まさか子供が事故の加害者になるなんて」

“加害者”という言葉を見た瞬間に衝撃が走りました。それまで気軽に考えていた自転車のイメージからは想像できないほど重い言葉だったからです。

さらに事件は続き、男の子の家族は見舞金として50万円を請求されます。保険に入っていなかったため全額負担しないといけなくなりました。

家計も苦しく、やむを得ず簡易裁判所で話し合いをすることに。するとこんなこ

とが指摘されました。

「左側走行が原則なのに男の子は右側を走っていましたね」

読んだ瞬間思わずぎょっとしました。僕自身そのルールが存在を知りませんでした。男の子の母親も知らなかったそうです。ですが結局男の子の落ち度ということで、約80万円を払うことになってしまいます。この記事を読み、あの警察の方の言葉がはじめてリアルに身に迫ってきました。

でも、もし僕がその場にいたら「そんなこと言われても……」と男の子に同情したと思います。なぜなら、ルールを知る機会が男の子には無かっただろうと思うからです。親でも知らないのにどこで知れるでしょう？恐らく学校でも習っていなかったのでしょう。

普段気軽に乗っている自転車を「危険」だと思ったことはありますか？

そもそも「危険」意識が無ければ、ルールを調べようとも思いつきません。歩道を歩く時にどう歩けばいいんだろうなどと調べる人がいるでしょうか？

これまでの活動で生徒の意識が変わったかはわかりませんが、僕たち活動に参加している側でさえルールも曖昧で、自転車の危険性を認識していない状況です。今は警察や交通安全活動をしている方々と一緒に、もっと自転車のマナー意識を広める活動ができるのではと考えています。



一日署長を体験して

行徳高等学校 木村 尚人

私は一日警察署長として、春の全国交通安全運動の出動式に参加させていただきました。出動式の中で交通安全のための宣誓を緊張しながらも、無事に終えることができました。

出動式の後は街中に移動し警察官の方をはじめとして多くの方と共にチラシを配り、道行く人々に交通ルールを守る大切さを直接訴えました。チラシを受けとってくださる方々から励ましの声を頂き、とてもありがたかったです。何よりチラシを配っている時、一人でも多くの人に事故のない生活を送ってもらいたいという思いを強く感じました。

普段、高校生や中学生の自転車の二人乗りやイヤホンをつけた運転をよく見かけます。警察官が来ても二人乗りを止めず、注意されているところを見たこともあります。

自動車との事故が多い中、現在は、自転車と歩行者の事故、自転車同士の事故も増加傾向にあるそうです。更に事故時の賠償金が高額となる場合もあるにもかかわらず、それに備える保険への加入率が極めて低いそうです。

自転車のルール違反やマナーの悪いこともあり、自転車事故は今や社会問題の一つになっています。自転車事故に対する危険性について認知度が低かったり、歩行者をはじめとする人々を思いやる心を持っていないことが原因となっているのではないのでしょうか？

事故を他人事のように考え、事故が起きて初めてその恐ろしさを知るといえるのだと思います。しかし、事故が起きてからでは遅いのです！

現在、私は自校でマナーアップ隊や生徒会の一員として活動を行っています。残念ながら我が校でも自転車の二人乗りなどをよく目にします。私は今回、交通安全

運動の活動に参加し、貴重な体験をさせていただきました。

日々の生活の中で交通安全に心掛けることの大切さを改めて確認し、自分が事故に気をつけるだけでなく、周囲の人々に交通安全について働きかける大切さも知ることができました。

今回の経験を生かし、一人でも多くの人が交通ルールやマナーを守り、事故のない生活を送れるように、仲間と協力しポスターを作成したり、チラシを配布するなど、交通安全のための活動を充実させていきたいと思います。



マナーアップ隊の活動を通して感じたこと

実籾高等学校 福岡 ちずる

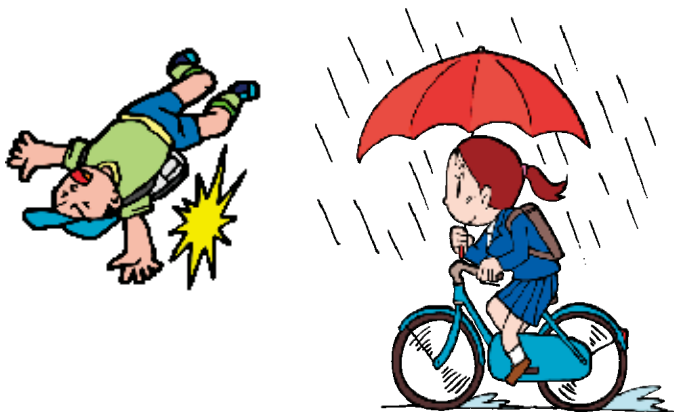
私は高校に入学し、マナーアップ隊として交通安全活動に参加するようになりました。マナーアップ隊では登校の時間に自転車の危険性、乗り方についての注意事項などが書かれたパンフレットや自転車につける反射板などを配り、みんなに交通安全への注意を呼びかけるなどの活動をしてきました。

また、私たちの学校では、プロのスタントマンの方々に来ていただき、傘さし運転の事故などを見させていただきました。事故は自分の不注意によって起きてしまうものだと思います。そして、全く関係のない人までも巻き込んでしまう場合もあり、本当に恐ろしいと思いました。改めて自転車の危険性を実感し、自転車に乗る時の意識が変わりました。

私は高校に入学してから自転車通学をしています。これまでの活動を通して交通安全について学び、自分の不注意で事故を絶対におこさないようにしようと思いました。そのために、音楽を聴きながらや傘をさしながら運転をしない。交差点や曲がり角では一度止まって必ず左右を確認する。などを心がけてきました。

ですが、音楽を聴きながら自転車に乗っている人や信号無視をしている人、二人乗りをしている人など危険な運転をしている人を見かけることがあります。それはちょっとくらい大丈夫だろう。とか、自分は事故を起こさないから大丈夫だろう。などと考えている人が多いからだと思います。でも現実に事故は私たちのまわりでたくさん起こっています。実際に事故を起こしてしまう前に、一人一人が自転車の危険性を十分に理解し、自分は大丈夫だ。という考え方や自転車の乗り方を改めるべきだと思います。事故は自分の命だけでなく、他人の命を奪ってしまうこともあります。これ以上、不注意で事故が起きないように安全に生活するにはみんなが注意することが大切だと思います。

これからもっとみんなに自転車の危険性を知ってもらって、自転車に乗る時に気を付けてくれるようにマナーアップ隊の仕事を積極的に行い、交通安全の活動を広げていきたいと思います。



無題（命を大切にすること）

船橋東高等学校 瀧尻 和哉

私の学校では一定の期間（約2週間）に渡り、朝の8時10分から30分まで生徒が通学時に利用する道路を5つのポイントで生活委員のメンバー各2人と先生1人の3人で様子を見て注意等を行っています。また、ポイント通過時に注意を受けたにもかかわらず学校に着くまでに注意された点に関して改善されていない場合は先生から厳重な注意がされることになっています。

この活動の中で私は非常に危険な自転車の乗り方を多くの生徒がしていると感じました。多かったものから挙げると、イヤホン着用のままの運転・スピードの出し過ぎ・並列走行等です。これらはどれも事故に直接繋がるものです。私は登下校が徒歩なのですが、もしも私が自転車で登下校をしていたら前に書いたことをしてしまうかもしれません。なぜなら、それぞれに音楽を聴きたい・急がないと遅刻する・友人と話したいといった理由が見えるからです。それなら、これを許していいのかいうとそうではありません。絶対になくさなくてはいけないことなのです。事故は人間の命をも奪ってしまいます。中学生、高校生は危険な運転が死に繋がる可能性があることを理解しています。では、なぜそれを理解して尚危険な運転をしようとするのでしょうか。

それは、中学生や高校生が死ぬということをはっきり分かっていないからだと私は考えています。人の死はその人がいなくなるだけでなく、周りの人の心も奪うと私は感じます。

私の母は、私が中学2年生の冬に亡くなりました。交通事故ではありませんでしたが、突然の死でした。母の死は一時的な悲しみを生むだけでなく、その時から今もずっと心に残って私を苦しめています。あの日に私がああ言っていたら、ああしていたら今も家で母が私を待っていてくれたのではと思ってしまいます。私には母

を失ったことで学んだ大切なことがあります。私はそれを大切な人（家族や友人）を失って悲しんだり、自分自身が事故で死んでしまったり怪我をしてしまう前に伝えておきたいのです。

それは、「自分の命を大切にすること」です。これは命はその人だけのものではないということです。次に、「今の自分、家族、友人たちに感謝すること」です。どんな人にも不満などはあると思います。私にもありました。母さんはいつも勉強しなさいってうるさいなあとか。他にもたくさんです。でも、その不満が言える環境自体が幸せそのものでした。このことに私が気付いたのは母がいなくなっただけでした。それでは、遅かったんです。ただ、今そのことに気付ければ自分の命も周りの人の命も今以上に大切にできると思います。高校生の私では命の重さについて分かっているとは思いません。しかし、「命を大切にしよう」と思うだけで事故やルール違反は減るはずで、マナーを守ることによって生活の中に幸せが増えると私は信じています。



無題（一日警察署長を経験して）

大網高等学校 匿名

私は9月17日、秋の交通安全運動に参加しました。ドキドキしながら初めて警察官の制服を着て、いつも猫背の私も背筋がピシッとしてしまうものでした。

主な活動内容は、まず署長室に入り一日警察署長賞をいただき写真撮影をしました。次に出動式に参加し、警察署員50名くらいの中で話と敬礼をしました。とても緊張して緊張のあまり話す内容を忘れしてしまい、とても焦りました。

その後、パトカーに乗って近くの交差点まで移動しました。初めて乗ったパトカーの乗り心地はとても良くてびっくりしました。その交差点では、ドライバーの人が赤信号で止まった時に、大網高校の中正農場で栽培した梨を、「事故無し」の無しとかけて、「事故梨」という形にして気をつけてもらえるよう配布しました。ドライバーの方たちが笑顔で接してくれて、その会話で少しでも気持ちにゆとりができて、ゆとりある運転で事故に気をつけてもらえたら良いなと思いました。

私は中学校の頃から柔道をやっていて、母に送り迎えをしてもらうことが多く、遅刻しそうになるたび母を急がしてしまうときもありました。その度、母は「事故になるから！」

と怒っていましたが気にしていませんでした。母に悪いことをしたなど、今は思います。

このマナーキャンペーンに参加するまで、交通事故の恐ろしさについて深く考えていませんでした。しかし、今回のキャンペーンに参加することができ、私は交通事故を身近に感じるようになってきました。また、いかに事故が危険なことか、などがわかりました。

キャンペーンを実施するにあたって、警察の方々をはじめ、地域のみなさんや色々な人が事故に関する呼び掛けをしていることもわかりました。色々な人が大変

な思いをしながら、でも、交通事故を減らしたいという一心で頑張っておられる姿を見ることが出来、このキャンペーン活動に参加できて、本当に私は感動しました。

事故の危険性なども感じる事が出来、これからは自分も感動させる側に立てられるように、自分なりに頑張っていこうと思いました。

一日警察署長になれて、とても光栄でとてもいい経験が出来たと思います。

